

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Team Happiness メディカルケア kids lab.こまつ支援室		
○保護者評価実施期間	2026年2月16日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年2月16日		2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による支援体制が整っている	保育士・児童指導員に加え、看護師や作業療法士等の多職種が連携しながら支援を行っている。医療的ケアが必要な児童を含め、子ども一人ひとりの健康状態や発達状況に応じて安全面に配慮した支援を提供している。また、日々の様子を職員間で共有しながら、多角的な視点で支援方法を検討している。	今後も多職種間での情報共有を継続し、子どもの発達や健康状態の応じた支援方法の検討を行うとともに、研修等を通して専門性の向上に努める。
2	活動内容の多様性	室内活動だけではなく外出活動や季節行事等を取り入れ、子どもが様々な経験を通して社会性や興味関心を広げられるような活動内容を工夫している。クリスマス会などの季節行事も取り入れ、保護者が参加できる機会を設けている。	子どもの発達段階や興味関心を踏まえながら活動内容を検討し、活動が固定化しないように工夫するとともに、子どもが安心して参加できる環境づくりを継続していく。
3	個々の発達に応じた支援	児童発達支援計画に基づき、子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を行っている。医療的ケアが必要な児童とそうでない児童の双方を受け入れ、それぞれの状況に応じて無理のない活動や支援内容を検討しながら支援を実施している。	職員間での日々の様子を共有しながら支援内容の見直しを行い、子どもの成長や変化に応じた支援を継続的に進めるよう努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域関係機関との交流や地域の子どもとの交流機会については十分とは言えないため、今後の検討課題である。	地域の保育所・幼稚園等との交流機会については、感染症対策や日々の支援活動を優先していることもあり、十分な機会の確保に至っていない。	今後は地域の関係機関との情報共有や連携を図りながら、可能な範囲で交流機会の検討を行う。
2	・研修やスーパーバイズ等、専門性向上の機会については、継続的な参加機会の確保が課題となっている。	研修や助言を受ける機会の確保に努めているが、職員の人数を余裕をもって配置しているため、研修に参加できる人数の確保が難しい。	今後も研修参加の機会を確保するとともに、オンライン研修等の活用も含め、職員の専門性の向上に努めていく。
3	保護者への情報発信や説明について、より分かりやすい方法の工夫が必要である。	日常的な情報共有は行っているが、活動内容や取り組みについての情報発信方法が十分に伝わりきれていない可能性がある。	送迎時の情報共有や、LINE、ハグ等の活用を継続するとともに、活動の様子や事業所の取り組みについて、よりわかりやすい情報発信に努めていく。

児童発達支援自己評価表

事業所職員向け

令和8年3月3日

対象人数（職員）7人 回答者数7人 回収100%

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	6	1	0	狭いスペースを有効活用し、不都合なく保育、療育を行なっている。	移転までの仮支援室であるので狭い。新施設では改善の見込み。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して職員の配置数は適切であるか。	6	1	0	基準の職員に加えて、看護師・保育士・音楽療法士・作業療法士などの専門職を積極的に配置し、他職種が連携して支援を行っている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。 また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4	0		移転までの仮支援室であるので、バリアフリー設計などの環境上の配慮が適切とはいえない。新施設では改善の見込み。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3	0	現状の利用人数と、利用者の年齢・特性・性格においての支障はない。	移転までの仮支援室であるので狭く、部屋数にゆとりがない。新施設では改善の見込み。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	0	7	0		移転までの仮支援室であるので狭く、部屋数にゆとりがない。新施設では改善の見込み。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	3	3	職員間でミーティングを行い、業務改善に向けた努力をしている。	目標設定が漠然としているため、明確な目標を定めて業務改善に努める。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	1	HUGにて保護者向け評価表を提出してもらっており、職員は上記の内容をいつでも確認可能。	職員が自発的に保護者の評価表を確認するほかに、把握の機会を設けて業務改善につなげる。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	2	職員間でミーティングを行い、業務改善に向けた努力をしている。	ミーティングは行なっているものの、話し合いの着地点が曖昧なので、改善につながる内容にする。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	3	4		・近々移転予定につき、現在は行っていないが、新施設に移転後は要検討。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	0	県内で開催が予定される研修等は把握し、必要な研修には職員が参加している。また、職員による研修会も年間予定を決めて行なっている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	0	事業所のホームページにて公表している。	公表している事実を職員に周知させる。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	0	児童や保護者との普段からの支援や交流の中で、必要性や要望などを把握し、児童の成長につながる児童発達支援計画を作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	0	児童発達支援管理責任者が作成した個別支援計画案を全ての職員で確認し、内容を修正および改訂して児童の最善の利益を目指した支援計画となるよう内容を検討している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	0	個別支援計画の見直しの際に職員間で内容が共有され、支援の方針を確認している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	5	2		標準化されたツールによるフォーマルなアセスメントは現状行っていないため、標準化されたツールを作成する必要がある。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	1	児童発達支援管理責任者が作成した支援計画を全ての職員で確認し、児童の支援に必要な項目が適切に選択したうえで具体的な支援計画となるよう内容を検討している。	

児童発達支援自己評価表

事業所職員向け

令和8年3月3日

対象人数（職員）7人 回答者数7人 回収100%

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点など	
適切な支援の提供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	1	保育士がチームとなって協力し、行なっている。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	1	保育士が季節と児童の発達や成長に合わせて工夫している。		
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	0	児童各個人に合わせた支援計画に基づき、集団的に行える活動は積極的に一緒に取り組むよう活動を工夫して支援している。		
	20 支援開始前には職員で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	2	児童の登所前に、出勤している全職員で本日の業務予定を確認し、児童の登所後は児童の体調や送迎等に合わせた活動予定を周知して支援している。		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	2	4	1	職員の業務終了時刻がそれぞれで異なるため、翌業務日の朝礼にて前日の支援の振り返りや反省などを行なっている。	多くの職員は8時30分に出動するため、朝礼に参加できないが、出勤時間が遅い職員も振り返りに参加できるようにしなければならない。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	0	HUG に詳細なサービス提供記録を取るほか、業務日報でも記録をつけ、支援の方針決定に役立てている。		
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行なっているか。	7	0	0	保護者や相談員を交えたモニタリングを定期的に計画し、個別支援計画の見直しを行なっている。		
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	0	普段から事業所で児童と交流している児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参画している。		
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	1	児童のかかりつけ医との協力のほか、地域の市民病院で音楽活動を行うなどにより、連携して支援を行えるように関係を深めている。		
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	2	児童の発達や成長に合わせて他事業所やこども園等との併行利用や、他事業所やこども園等への移行を視野に入れて支援を行なっている。併行利用している施設と良い関係を築き、情報共有と相互理解を図ることができるよう努めている。	よりたくさんの保育所・認定こども園・幼稚園・特別支援学校との交流を深める必要がある。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	2		当支援室には就学に至る年齢の児童が未所属であるため、現時点までには小学校等との繋がりはないものの、児童の年齢に合わせて行う予定。	
	28 30	児童発達支援センターのみ回答 児童発達支援事業所は回答の必要なし					
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	2	公園や児童館で地域のこどもたちとの交流の機会がある。	施設移転後は近隣こども園等との交流も視野に入れている。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	0	成長発達についての要望や展望を保護者と共有し、発達の状況や課題についての共通理解を持っている。		
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	2		近々移転予定につき、現在は行っていないが、新施設に移転後は要検討。		

児童発達支援自己評価表

事業所職員向け

令和8年3月3日

対象人数(職員)7人 回答者数7人 回収100%

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点など
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	1	入所時に行なっている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	0	定期的な個別支援計画の見直しの際には、保護者の意思を確認したうえで児童の最善の利益を優先した計画を作成している。	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	0	保護者の意思を確認して作成した支援計画を保護者に提示し、同意を得たうえで支援を行なっている。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	0	保護者から相談を受けた際には、送迎時に直接、またはHUGでの返信、電話、LINEなどを通して必要な助言を行なっている。	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	2	まだ施設開設から日が浅いため、現時点ではクリスマス会のみにも留まるが、移転後は施設が広くなるため、その他の交流会や嘱託医による講習および講演会なども開催予定。	
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	2	普段から「何かあれば気軽に相談してください」とお伝えしているが、対応の体制の周知についてはできておらず、要改善していきたい。 ・移転後は相談室にていつでも対応可能な見込み。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	0	HPでは国で必要と定められている情報開示をしているほか、SNSでは普段の活動や行事、制作物などを、児童のプライバシーを尊重したうえで発信している。	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	0	掲載時の同意書に基づき、個人情報の取り扱いについて留意している。	
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	0	わかりやすいサインを用いながら、保護者と相談した動作による意思の疎通や情報伝達も目指している。	
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	2		昨年未までは定期的に体験会を開催していたので、施設移転後は折を見て再開し、交流の機会を作りたい。
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	3	各マニュアル策定済。また、HPで公開している。年間予定で定めた各種訓練を実施している。	HPで公開していることを職員や保護者に定期的に伝えるなどして周知させる。
	46 「業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	1	業務継続計画(BCP)策定済。また、HPで公開している。年間予定を定め、定期的に各種研修および訓練を実施している。	
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	0	児童の医療情報は入所時点で全職員が確認し、対応に不備のないよう徹底している。	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	3	児童の医療情報は入所時点で全職員が確認し、対応に不備のないよう徹底している。	
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	1	安全計画策定済。また、HPで公開している。職員でのミーティングにおいて安全管理の改善等を行なっている。	
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0	4	安全計画策定済。また、HPで公開している。職員でのミーティングにおいて安全管理の改善等を行なっている。	HPで公開していることを職員に定期的に伝えるなどして周知させる。

児童発達支援自己評価表

事業所職員向け

令和8年3月3日

対象人数（職員）7人 回答者数7人 回収100%

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点など
非常時等の対応	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	1	何かあればヒヤリハットを記入し、朝礼で内容を周知したうえで改善案を出し、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	1	虐待防止研修に出席した職員が、その内容を研修に出ていない職員に向けての虐待防止研修を行なっている	
	53	どのような場合にやむをず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	0	5	身体拘束は医師の指示の元でのみ行うことを組織的に決定している。現時点での利用者には身体拘束の指示書を医師から受け取っていない。	身体拘束の指示書を受け取った場合は児童発達支援計画に記載する。